



ラツータ錠[®]について

2020年6月に発売され当院でも採用となっておりますラツータ[®]錠につきまして薬品情報をお知らせいたします。

【販売名】

ラツータ[®]錠 20 mg、ラツータ[®]錠 40 mg、ラツータ[®]錠 60 mg、ラツータ[®]錠 80 mg

注) 当院採用は 20 mg と 40 mg

【一般名】

ルラシドン塩酸塩

【効能・効果】

統合失調症、双極性障害におけるうつ症状の改善

【用法・用量】

<統合失調症>

通常、成人にはルラシドン塩酸塩として 40mg を 1 日 1 回食後経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日量は 80mg を超えないこと。

<双極性障害におけるうつ症状の改善>

通常、成人にはルラシドン塩酸塩として 20~60mg を 1 日 1 回食後経口投与する。

なお、開始用量は 20mg、増量幅は 1 日量として 20mg とし、年齢、症状により適宜増減するが、1 日量は 60mg を超えないこと。

【製造販売元】

大日本住友製薬株式会社

【承認日】

2020年3月25日

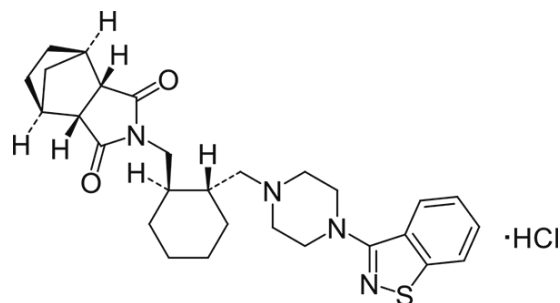
【薬価収載日】

2020年5月20日

【薬価】

ラツータ錠 20mg : 178.70 円 ラツータ錠 40mg : 328.90 円

ラツータ錠 60mg : 469.90 円 ラツータ錠 80mg : 482.40 円



統合失調症の治療の基本は薬物療法です。統合失調症では脳の部位によってドパミンバランスが崩れていると考えられているので、それを整えてることが治療の第一歩です。

ラツータ[®]錠は、その作用機序からセロトニン・ドパミン受容体遮断(SDA: Serotonin-Dopamine Antagonist) に分類される非定型抗精神病薬です。

非定型抗精神病薬は、①ドパミン D2 受容体以外にも作用する②陽性症状、陰性症状を共に改善する③錐体外路障害が起こりにくい、といった特徴を有しております。

非定型抗精神病薬の分類

非定型抗精神病薬	作用機序	代表薬
SDA: Serotonin-Dopamine Antagonist	セロトニン・ドパミン受容体遮断	リスペリドン(リスパダール [®]) ペロスピロン(ルーラン [®]) ブロナンセリン(ロナセン [®])
MARTA: Multi-Acting Receptor Target Antipsychotics	セロトニン・ドパミン受容体遮断 + α受容体/H1受容体/M受容体も広く遮断	オランザピン(ジプレキサ [®]) クエチアピン(セロクエル [®])
DSS: Dopamine System Stabilizer	ドパミン受容体の部分作動薬(パーシャルアゴニスト)	アリピプラゾール(エビリファイ [®])
SDAM: Serotonin-Dopamine Activity Modulator	セロトニン・ドパミン受容体の遮断及び部分作動薬(パーシャルアゴニスト)	ブレクスピプラゾール(レキサルティ [®])

双極性障害(躁うつ病)とは、うつ状態と躁状態の双方の状態が現れ、これらをくりかえす慢性の病気です。またこの疾患はⅠ型とⅡ型に分けられており、双極Ⅰ型障害は入院が必要になるほどの激しい「躁状態」が起こるもの、双極Ⅱ型障害は本人も周りも困らない程度の「軽躁状態」が起こるものとわれております。

ラツータ[®]錠は双極性障害におけるうつ症状の改善に適応を有しております。既存の SDA は「統合失調症」に適応を有していますが双極性障害に適応はありませんでしたので、ラツータ[®]錠は SDA で初の双極性障害に使用できる薬剤ということになります。

双極性障害における躁症状の改善においては、MARTA のオランザピンや DSS のアリピプラゾールにその適応があり、汎用されております。

ラツータ[®]錠の主だった有害事象はアカシジア(静坐不能)(8.3%)であることが報告されております。

★編集後記

日に日に寒くなるばかりです、体調管理に気を付けましょう。
 新型コロナの感染はおちついてきておりますが、インフルエンザ感染も心配です、感染予防引き続きよろしくお祈いします。
 うがい、手洗い忘れずに。

